

1.

【写真アルバム】

琵琶湖 野洲川河口 守山市なぎさ公園の菜の花畑に一足早い春を訪ねる 2013. 2. 11.
なぎさ公園から眺める早春の琵琶湖・近江富士（三上山）・御上神社



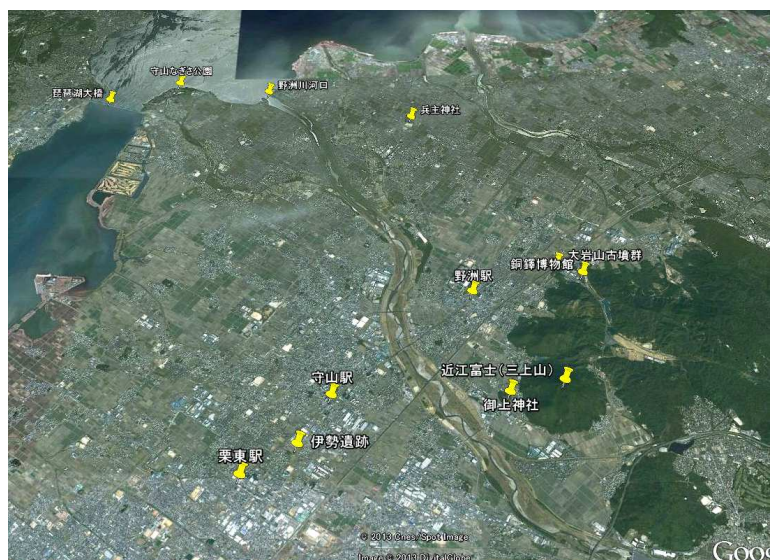
野洲川河口の琵琶湖岸 守山市なぎさ公園 春はもうそこまで 雪の比良を背に一面まっ黄の菜の花畑 2013. 2. 11.



琵琶湖野洲川河口から 中央左手:近江富士（三上山）川向こう中央右手:金勝山と伊勢遺跡のある守山市・栗東市周辺

昨年 12 月 近江平野中央 東近江 野洲川の琵琶湖岸デルタに出現した卑弥呼が住んでいたとの説もある大集落「伊勢遺跡の見学に訪ねましたが、遺跡から垣間見える周囲の山々や琵琶湖・野洲川に思いをはせるも、実際に訪ねることが出来ませんでした。この琵琶湖野洲川河口には菜の花畑があり、琵琶湖越しに見る比良の山々とあわせ、関西で一番先に春を伝える観光名所で何度か訪れたことがある。

この野洲川河口「守山市なぎさ公園の菜の花が満開になった」と聞いて、再度野洲川河口や野洲川デルタそして其の背後に聳える東近江のシンボル三上山山麓の御上神社・銅鐸博物館を訪ねました。



三上山は近江平野のどこからも其の秀麗な姿を遠望でき、「近江富士」とよばれる東近江のシンボルで、卑弥呼がいたといわれる伊勢遺跡からもすぐ近くに見晴らせ、伊勢遺跡そのものや祭殿もこの三上山を意識して集落があったと思っている。

この三上山の東北山麓 近江平野に突き出た丘大岩山から、この伊勢遺跡が栄えた同時代の弥生の後期に丁寧に埋納された 24 個の銅鐸が出土。 銅鐸を祭祀のシンボルとしてきた弥生時代の終焉そして古墳時代の始まり（鏡・鉄の時代）を見てきた地として。現在は伊其の地に銅鐸博物館が建ち、伊勢遺跡とも深い関係にある。



大岩山銅鐸

大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。



近江富士(三上山) (432m)

近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある



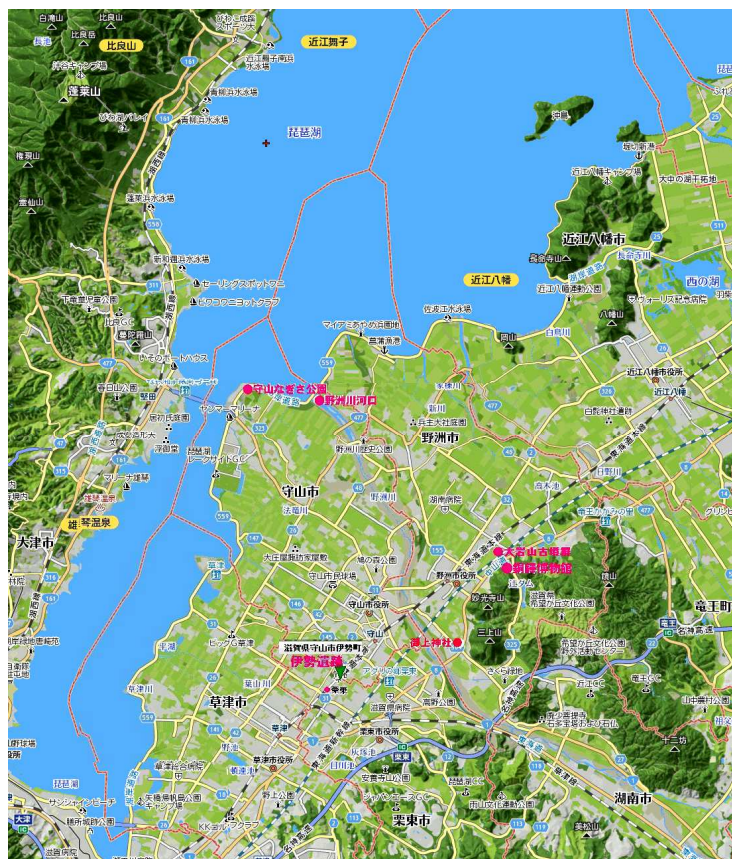
伊勢遺跡 守山市伊勢町

卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿が
そろって出土した東近江 弥生後期の
大集落

琵琶湖の向こうに雪の比良をバックに一面まっ黄色になった菜の花畑そして 何度か通ったことがあったのですが、あまり意識していなかった野洲川河口を見たくて 「琵琶湖に春を探しに行こう」と家内の運転で 2 月 11 日休日の朝神戸から栗東へ。 何度かでかけたことがあるので、道は大丈夫。でも 晴れてはいるのですが、東の空には雲。京都の北山や東山には雲がかかっている。「今日は比良が見えないかも・・・。 雪の比良をバックに菜の花畑が見たかったのに・・・」と。 でも、宇治の山を越えて草津に入ると雲が切れてきて一安心。

神戸から 2 時間弱で近江富士を眺めながら栗東のインターを出て、今日は琵琶湖岸へまっしぐら。

この東近江 野洲川デルタに卑弥呼がいたという伊勢遺跡の時代をダブらせながらの「東近江 琵琶湖で見つけた一足早い春」の写真アルバムです。



● 野洲川河口の琵琶湖岸 守山市なぎさ公園 雪の比良を背に一面まっ黄色の菜の花

雪の比良をバックにしたまっ黄色の菜の花畑もばっちり。

また、菜の花満開の湖岸から見る琵琶湖には、エリ漁の仕掛けがみられました。

エリ漁のしかけも年々減ってしまっていて見られないと聞いていたのでラッキーでした

● 野洲川河口 - まだまだ寒い早春の琵琶湖 & 近江富士遠望の野洲川土手の風景 -

● 近江富士 三上山山麓の 御上神社・銅鐸博物館を訪ねる

1. 野洲川河口の琵琶湖岸 守山市なぎさ公園 2013.2.11.

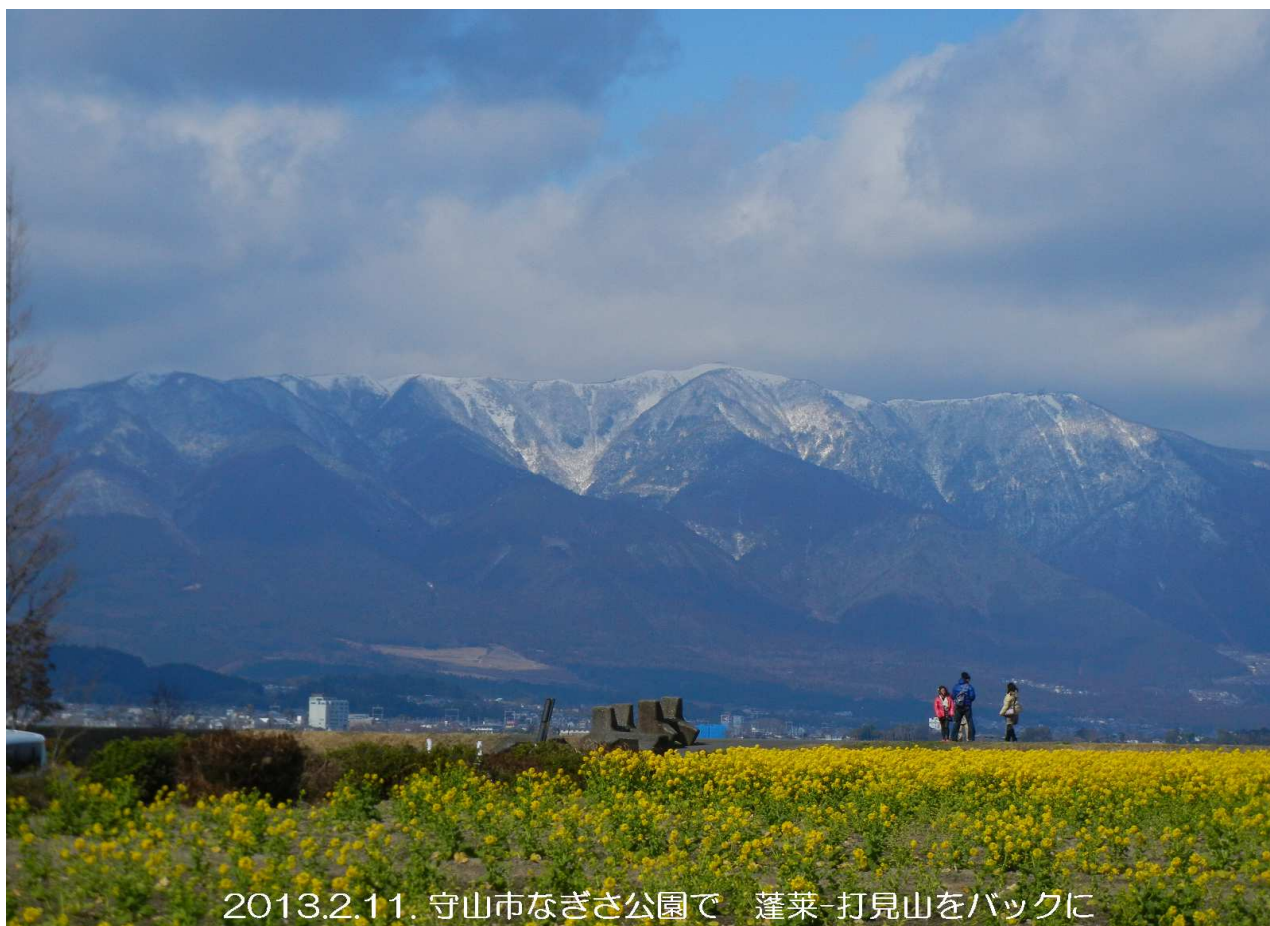
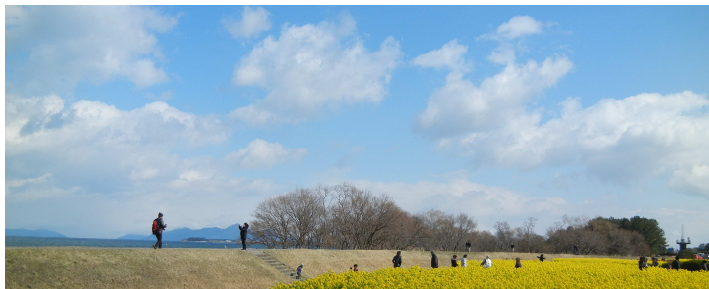
雪の比良を背に一面まっけ色の菜の花 春はもう そこまで



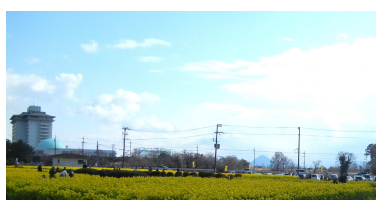
守山市の田園地帯を北西の琵琶湖大橋周辺の湖岸へ向かう

琵琶湖大橋近く 国道 477 で

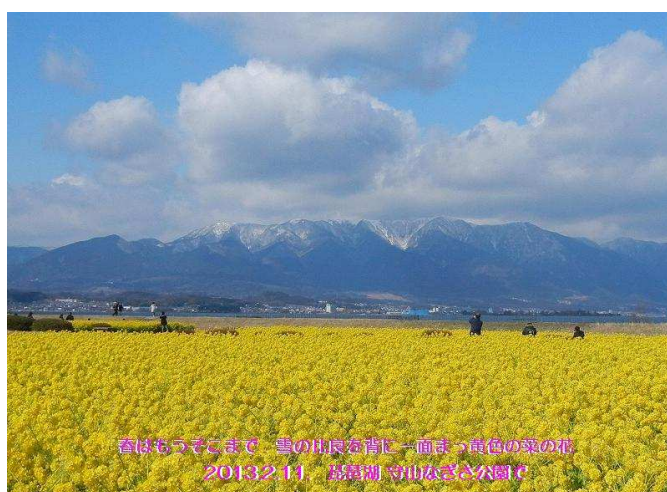
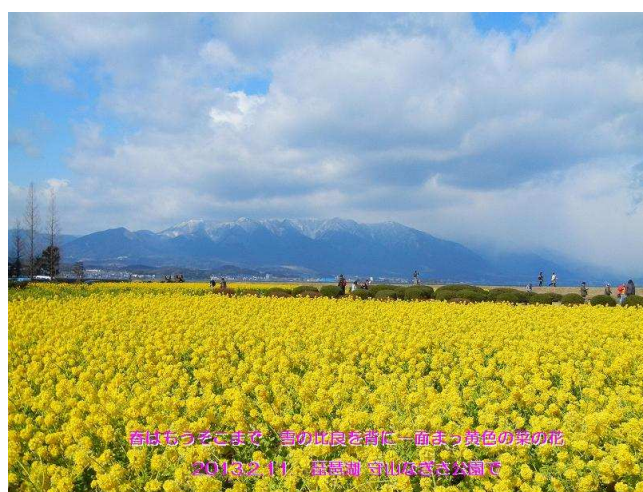
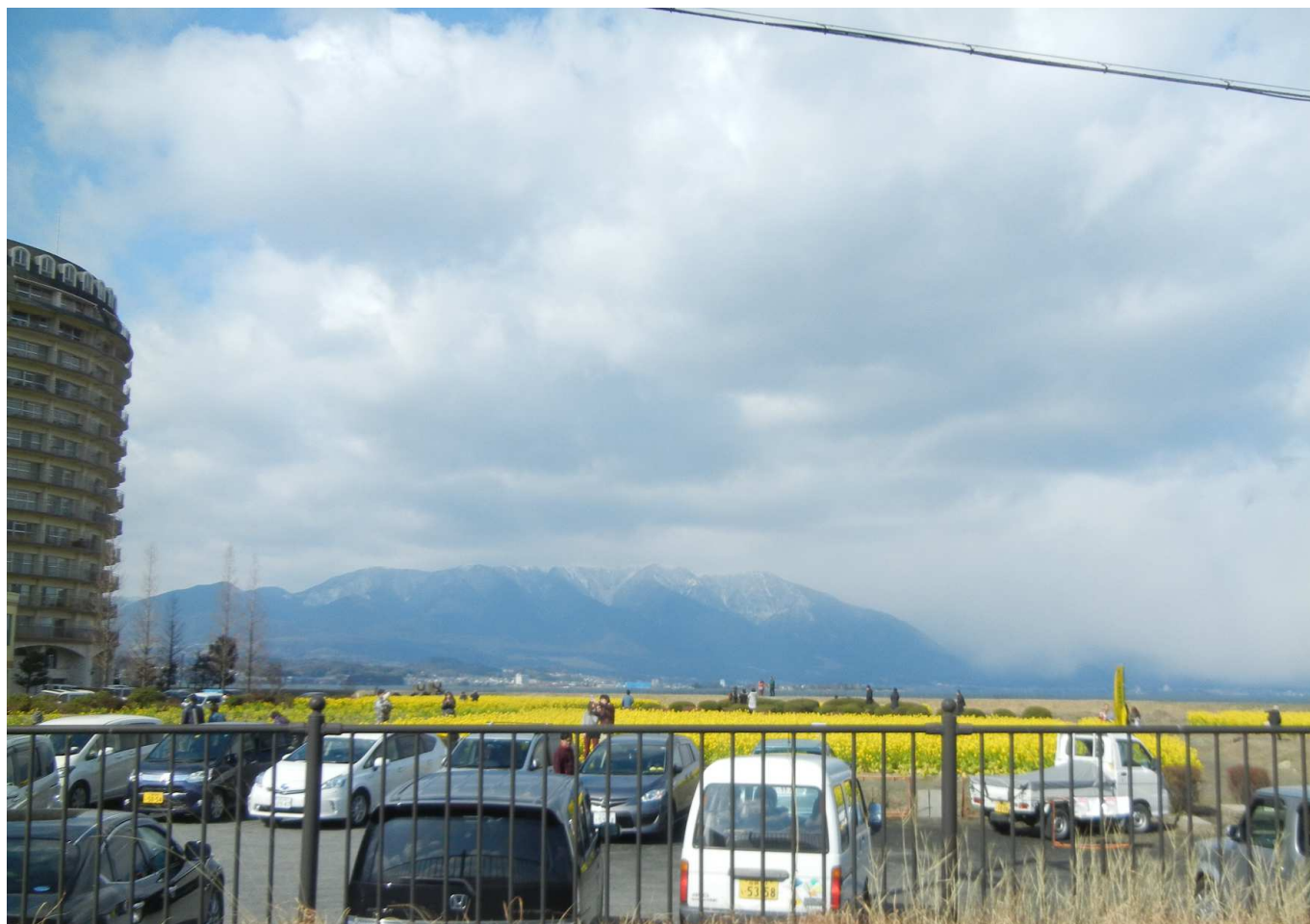
比叡・比良の山並の南側は雲の中 でも琵琶湖大橋に近づくにつれ、くっきりと



2013.2.11. 守山市なぎさ公園で 蓬萊-打見山をバックに



琵琶湖と反対側 南西側には菜の花畑の向こうに東近江のシンボル 近江富士 2013. 2. 11.



一面まっ黄色の菜の花 琵琶湖の向こうに雪の比良蓬莱山・打見山 ここだけはもう一足先に春 2013.2.11.



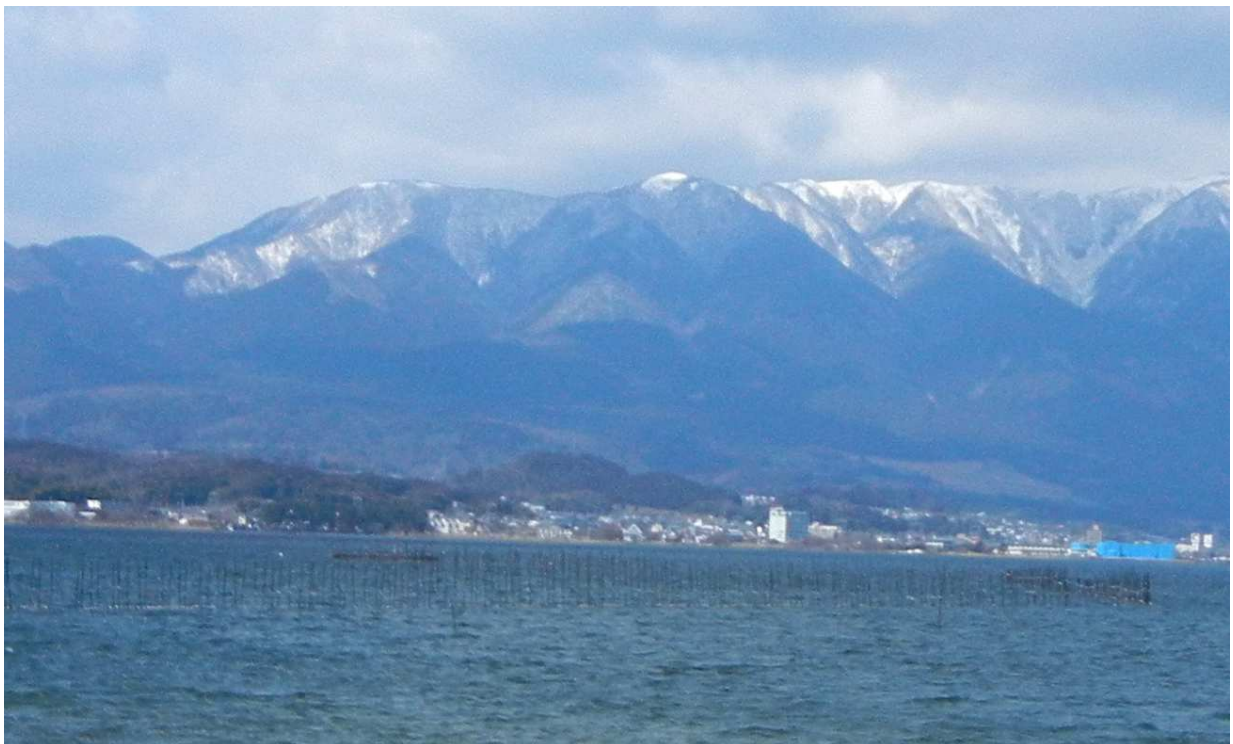
守山は琵琶湖エリ漁の発祥地 なぎさ公園沖にもエリ漁の仕掛け 2013.2.11.



琵琶湖の湖面にはエリ漁の仕掛けの柵 早春は「鮎の稚魚・氷魚」のエリ漁の最盛期 2013. 2. 11.

えり漁は伝統的な琵琶湖の漁法で、定置網漁の一種で、魚が障害物にぶつかりそれを移動する習性を利用し狭い囲いへ誘導する漁法です。漁具には、竹、ヨシ、杭などの自然の素材が利用される。

守山漁港はエリ漁発祥の地といわれ 体が透き通っているところから「氷魚（ひお）」と呼ばれて珍重される稚アユは、三月までが勝負だという



守山市なぎさ公園湖岸沖に仕掛けられたエリ漁の仕掛け 2013. 2. 11.



湖岸道路の前方広い近江平野の田園の向こうに近江富士



防風林が続く湖岸道路の向こうに野洲川河口にかかる大橋

なぎさ公園から湖岸道路を東へ野洲川河口へ向かう 5 分ほど走れば 野洲川の河口にかかる中洲大橋

湖岸には琵琶湖を吹き渡る「比良おろし」の防風林が湖岸道路に沿って続く

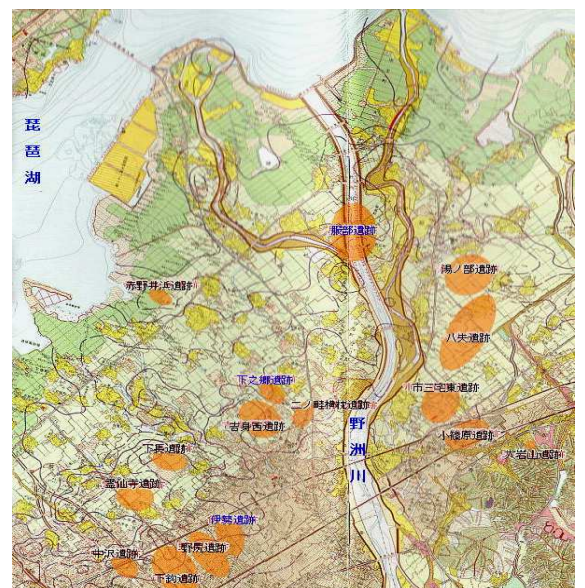
2. 琵琶湖 野洲川の河口の風景



野洲川河口から川越しに遠望する東近江 守山・栗東 左手奥に近江富士 右手奥に金勝・信楽の山並



野洲川河口には船溜まりの掘割港



野洲川デルタの弥生・古墳時代の遺跡



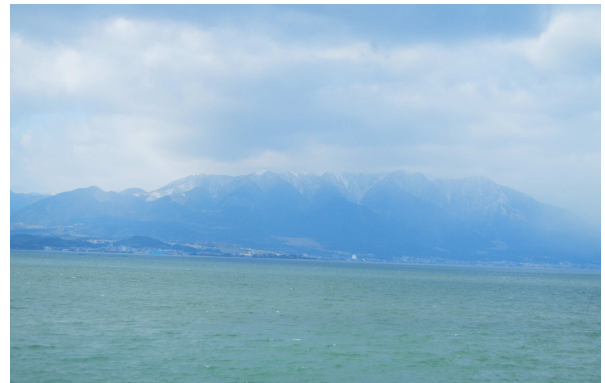
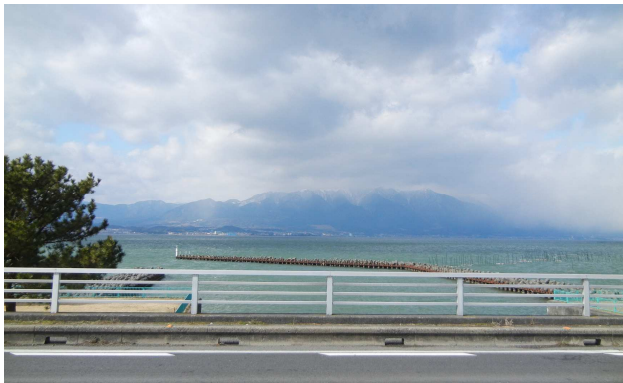
野洲川河口の中洲大橋を渡し、野洲市側から遠望する野洲川土手の向こうが守山・栗東 2013. 2. 11.



中洲大橋から眺めた琵琶湖対岸 2013. 2. 11.



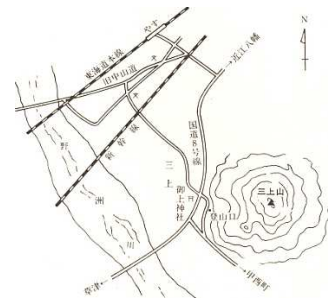
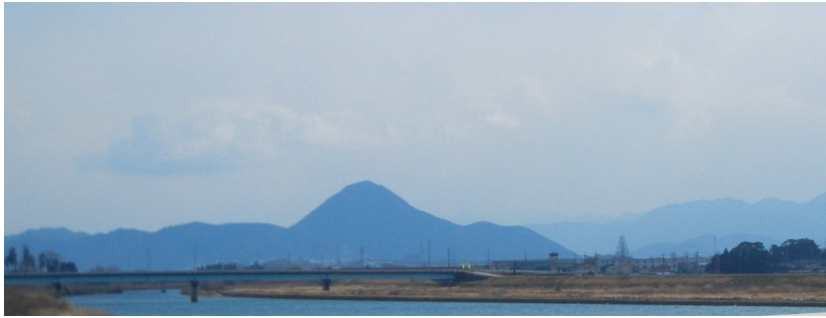
果樹園が広がる野洲市側 野洲川土手から遠望する近江平野 守山・栗東方面 2013. 2. 11.



琵琶湖冬 比良の山並から近江平野に吹き降ろす北西の季節風 比良おろし
早春の東近江の湖岸 まだまた 冷たい風も吹いていました



3. 近江富士「三上山」山麓に御上神社・銅鐸博物館を訪ねる



琵琶湖湖岸の野洲川河口から 田園地帯を東 三上山の麓 野洲の街へ



田園地帯の中の小さな森にこんな立派な兵主神社 鉄と関係の深い大国主命が祭神

渡来人・鉄と関係の深い近江 近江遷都の際に大和から移ってきたという

近江は大和の東 都祁 - 近江の南の柘植 琵琶湖を通じて若狭・大陸とつながる

兵主神は天日槍との関連が深いといい、近江は天日槍の後裔とされる息長氏の拠点

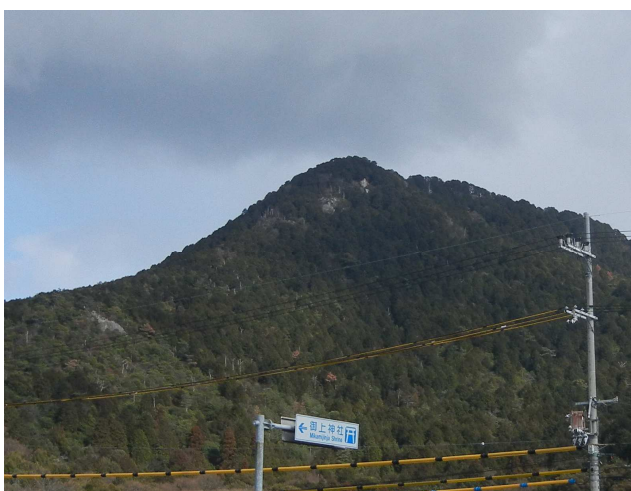
渡来人の繋がり ●磯城-山城-近江-越・若狭-出雲-新羅 ●葛城-難波-吉備-筑紫-百済



野洲の市街地を走りぬける国道 8 号線を挟んで 三上山を御神体山とする御上神社前から見る三上山
近江平野のどこから見ても円錐形に見える独立峰の美しい山で近江富士ともよばれる近江のシンボル

依藤太の百足退治の伝説を持つ山としても有名

この御上神社前からは近すぎて 隣の小山が重なって、遠くから眺める方が美しい



御上神社 三上山（標高 432m）の山麓に鎮座し、三上山を神体山として祀る近江一の古い社
祭神は 天之御影命（あめのみかげのみこと）鍛冶の神である天目一箇神と同一神とされ、
ここにも鉄・大陸と関係の深い近江の姿が浮かび上がってくる
境内には国宝の本殿のほか、重要文化財の拝殿・楼門・摂社若宮本殿・狛犬が残っている



三上山を北側に回り込んだところが銅鐸出土地大岩山 その山際近くに銅鐸博物館が建っていた

大岩山からは 1881 年に 14 個 1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。この中には日本最大の銅鐸がある。

銅鐸博物館にはこの大岩山から出土した銅鐸の出土時の様子や銅鐸の時代の流れが展示されていました

4. まとめ

まだ少し冷たい比良おろしが吹く野洲川河口の湖岸《守山なぎさ公園》には菜の花が咲き乱れ、一面まっ黄色。コバルトブルーの大海が広がる湖面には エリ漁のしかけ。そして対岸向こうには雪を戴いた蓬萊・打見山。もう一足早い春。

ゆったりとした空間が流れて、これが東近江の春。

また、この琵琶湖岸の野洲川デルタには 弥生時代後期 宮殿・祭殿・望楼などの大型建造物が建ち並び、日本各地はては大陸からやってきた人達が交流する先進的な大集落「伊勢遺跡」があり、卑弥呼がいたという説もある。

その隆盛の源泉は琵琶湖・野洲川による人・物流と豊穡の近江平野か・・・

集落をとりかこむならかな自然の景色が穏やかな空気を漂わしていました。

弥生から古墳時代への移り変わりに先進的役割を果たした《伊勢遺跡》

遺跡が形成された野洲川が注ぎこむ湖岸はどんな場所だろうと興味津々での探訪。

遺跡のすぐ向こうにはシンボリックな近江富士が集落を見守り、集落を少し出ると大河野洲川デルタに広大な近江平野が広がり、其の先には野洲川河口と琵琶湖の覆う身となだらかな峰を連ねる山々が遠く遠巻きに平野を取り囲む肥沃の地。豊かでおだやかな空気が満ちている。

交通の要衝にある肥沃の地が穏やかな気風の弥生の先進的な大集落を生み、卑弥呼の邪馬台国・そして初期大和王権への道を切り開く先進的役割を果たしたのだろうと。

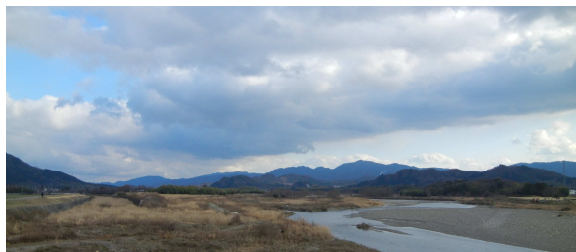
比良から吹き降ろす風にちょっぴり震えながらも、周りの景色を眺めながら そんなことを考えていました。

また、見渡す琵琶湖 東近江はもう一足早く早い春の景色で一杯。

心地よい 琵琶湖・野洲川河口探訪に満足でした。



琵琶湖 野洲川の河口 守山なぎさ公園はもう一足早い春 菜の花が一面に



鈴鹿の山々が連なる南から北の琵琶湖へ近江平野の中央部を形成して流下る近江の母なる川 野洲川



大岩山銅鐸

大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。



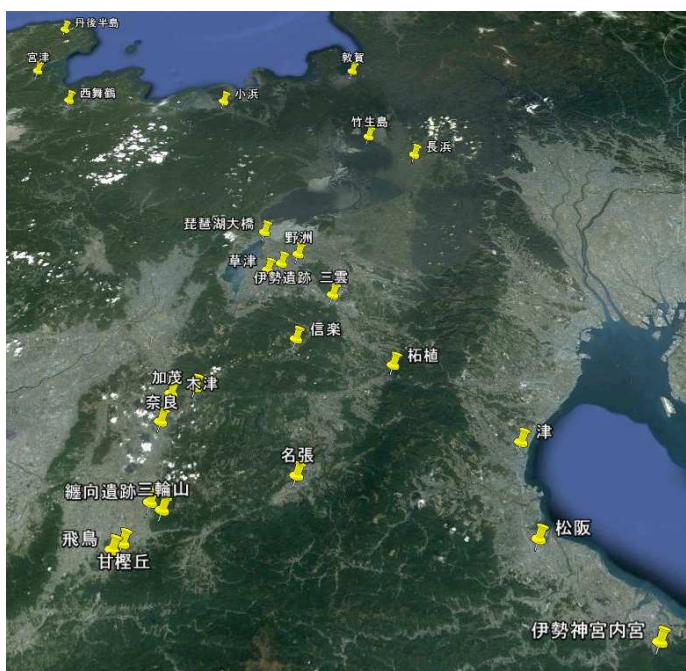
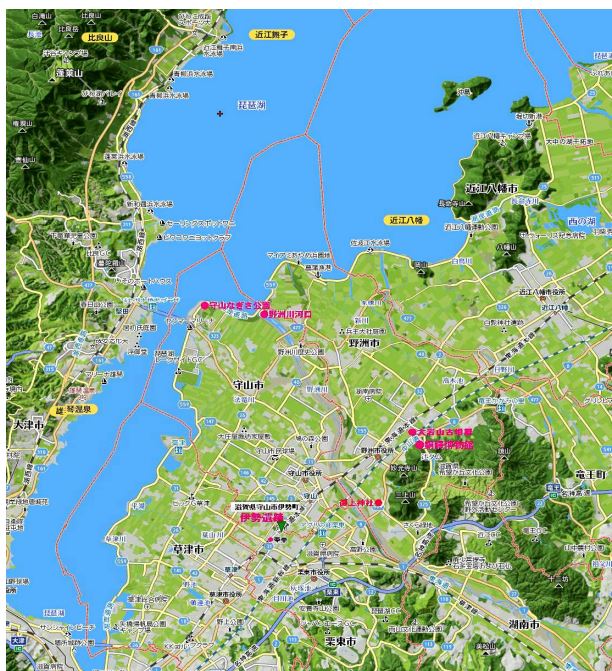
近江富士(三上山) (432m)

近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある



伊勢遺跡 守山市伊勢町

卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した東近江 弥生後期の大集落



【参考】 和鉄の道 2013 「卑弥呼の邪馬台国」の候補地を訪ねる【1】

東近江野洲川南の湖岸近く 弥生後期の大集落「伊勢遺跡」を訪ねる 2012. 11. 21. & 2013. 2. 11.

魏志倭人伝に記述された《卑弥呼の居処には「宮殿」・「祭殿」・「楼閣」・「城柵」》すべてがそろった大集落

